

平成26年8月10日号 (第140回)

阿伎留通信

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

このたび当院小児科では予防接種スケジュールリング外来を開設いたしました。

そのご紹介もかねて、今回の阿伎留通信は

— 「予防接種」 —

をテーマに小児科 松村昌治医師より

お話しさせていただきます。



予防接種というのは、予防できる病気にはかからないように、流行させないようにしましょうという事で始まっています。最近では予防接種の種類が増えてきて、上のお子さんと下のお子さんでは予防接種が全く異なるような事も珍しくありません。

2005年の麻疹風疹混合ワクチンを皮切りに2008年にHibワクチン、2009年にヒトパピローマウイルスワクチン、2010年に7価肺炎球菌ワクチン、2011年にロタウイルスワクチン、2012年に不活化ポリオワクチン・四種混合ワクチン、2013年に13価肺炎球菌ワクチンと、この10年を見ても7種類のワクチンが新たに導入されています。

しかし、それに伴って副作用の問題も無い訳ではありません。2011年には三種混合・Hib・肺炎球菌ワクチンの同時接種で死亡例が出て、最終的には厚労省の調査で因果関係は無いという結論になりましたが、一時期実施が見合わせられました。今でもヒトパピローマウイルスワクチンは接種が勧められない状況にあります。

日本では昔から予防接種の副作用を大きく問題視する傾向にあります。とくに1989年に始まったMMRワクチンは無菌性髄膜炎の発症が多かったため3年で中止となりました。国の賠償問題となった事から、予防接種の集団接種が中止され、ほとんどが個別接種に移行しました。

これは実は大きな問題で、国民の為によかれと思ってやっていた事が仇となり、国民の健康を国が守るのではなく、個人の判断で守るように方針が変わってしまいました。その為、現在は定期接種でも80%から95%程度、任意接種では30%から50%程度の接種率となっています。これではワクチンの効果が表れず、病気の根絶からは、ほど遠くなってしまい流行する事もあります。ワクチンを接種していても流行していればやはり感染のリスクは少なからずあります。

例えばこの2年ほど流行している風疹は、実は2004年に大流行しました。それを受けてMRワクチンが2回接種になり、第3期、第4期と言って中学生や高校生の定期接種も行われました。しかし実際には第3,4期は70%-90%程度の接種率でした。そこで、再び2012年頃から風疹が流行したのです。以前は中学生の女子への接種で先天性風疹症候群が予防できると考えていましたが、この流行で去年は約40名の先天性風疹症候群の児が生まれています。日本産婦人科学会の働きかけもあり、今年の3月に厚労省が2020年までに男性も含めて風疹の根絶を目指す事を明確に示しました。(ちなみにアメリカでは2004年に根絶されています。)

多くの予防接種をスムーズに行う為に当院の小児科では医師による予防接種スケジュールリング外来を開設させて頂き、患者様の予定に合わせて無理なく予防接種が行えるように致しました。費用はかかりません。予防接種の事で御心配な事があれば当院の小児科外来までご相談いただければと思います。

(スケジュールリング外来受付: 平日午前10時から午後5時まで)

予防接種スケジュールリング外来

URL: http://www.akiru-med.jp/pdf/Vaccination_schedule.pdf

下記のQRコードからも読み込めます。



公立阿伎留医療センター 患者サービス改善委員会 発行

阿伎留通信については、第1回から最新号まで、公立阿伎留医療センターのホームページで御覧になることができます。ホームページアドレス(<http://www.akiru-med.jp>)